

海ノ口温泉 湯元ホテル 和泉館

Uminokuchi Onsen Yumoto Hotel Izumikan
(長野県南牧村)



今回紹介する温泉は、海ノ口温泉の和泉館である。JR 小海線（八ヶ岳高原線）・佐久海ノ口の駅のすぐそばにある昭和の香り漂うレトロな温泉宿だ。

なぜ海のない長野県に海ノ口などという地名なのか。調べてみると、このあたりは八ヶ岳の噴火によってできた湖がいくつかあったようだ。現在は存在しないが、海ノ口にも湖があったらしい。小海という地名も同様に、海があったわけではなく、湖があったことに由来しているようだ。

さて、この海ノ口温泉は、この辺りが海の底だった頃（つまり八ヶ岳も日本も存在しなかった頃の話だと思うのだが）の海藻類が地層となり、その地層を由来とする鉄分やヨウ素などのミネラル成分が多く含まれている。そのため、源泉は茶色をしている。

では和泉館の風呂を紹介していこう。温泉はフロントの右奥手を進んでいったところにある。館内は広く、迷子になりそうだ。フロント横のロビーにはフィットネスバイクなどの運動器具があり、汗を流してから温泉は入ることも可能だ。但し、人目を気にしながらということになる。風呂へ行く途中には休憩スペースがある。

脱衣室には洗面台が 2 個、脱いだものを入れる籠が 21 個ある。ロッカーは 8 個あり、100 円硬貨を投入して使用する。投入した 100 円は戻ってこない。

浴室はシンプルだ。左手に洗い場が 6 か所、右手前にサウナ、右側に浴槽が 3 種類、屋外に露天風呂があるのみだ。浴室はかなり古いように見える。50 年は使用しているのではないだろうか。洗い場にはリンスイシャンプーとボディソープが具備されている。

内湯の浴槽は、一番大きな浴槽が定員 8 人くらいの円形をしている。湯温はやや熱め。なぜか湯は透明である。後で宿の主人に聞いてみたところ、ろ過をしているからで、温泉には違いないのだそうだ。残り 2 つの浴槽が問題である。「源泉」と表示された小さな浴槽は、湯の花が浮遊していて茶色だ。湯温は人肌よりやや低め。30℃くらいであろうか。温泉の効能を味わいたければ、こちらがお勧めだろう。その横の同じく小さい浴槽は、色が茶色で、温度は 20℃くらい。水風呂として利用することがお勧めだ。すなわち、この温泉をとことん味わいたければ、この 2 種類の風変わりな温度の浴槽に入らなければならないというわけだ。しかも、それぞれ定員は 1 人～2 人分しかない。



風変わりな浴槽が苦手なら、露天風呂がお勧めである。露天風呂の定員は 3 人程度。湯温は 40℃くらいだろうか。かなりぬるめである。色は茶色。露天風呂を長時間味わうことで、この温泉の成分の効能をいただく。これが最もオーソドックスな和泉館の楽しみ方であろう。

サウナは室内温度 60℃の低温型だ。かなり長時間入っていないと発汗しないと思われる。定員は 8 名くらいであろうか。

ちなみに和泉館の湯はナトリウム・マグネシウム-炭酸水素塩・塩化物温泉（低張性中性温泉）で、神経痛、筋肉痛、関節痛、五十肩、運動麻痺、関節のこわばり、うちみ、くじき、慢性消化器病、痔疾、冷え性、病後回復期、疲労回復、健康増進、きりきず、やけど、慢性皮膚病、虚弱児童、慢性婦人病に効くという。

昨日と今日は朝の 6:00 から 15:00 まで 9 時間もスキー場にいた。2 日間合計で 80 本近く滑っていると思う。既に足腰がガタガタである。しかし、日本には温泉がある。しかも豊富に。この辺りも例外ではなく、温泉がたくさんある。他の温泉もいずれ紹介したい。

DATA

名称	海ノ口温泉 和泉館
所在地	長野県南佐久郡南牧村海ノ口 933
電話	0267-96-2106
営業時間	要確認
定休日	無休
入浴料	大人 500 円、小人（4 歳以上～小学生）300 円、3 歳以下無料、宿泊者は無料
サウナ	あり
サウナ内のテレビ	なし
取材日	2018 年 1 月 7 日（日）
取材	銭湯愛好会東京支部